

## 海外大進学について

皆様こんにちは。小石川 8 期生で、平成 30 年度卒業の杉下はると申します。今秋から米国ニューヨーク州の Vassar College に進学します。

私が、海外大進学を志したのは、東京都の次世代リーダー育成道場というプログラムを利用して高校 1 年時に 10 ヶ月間、米国ミシガン州に留学した時です。全く新しい環境で多様な価値観に触れ、学びが大きかった反面、留学生としてではなく正規の学生と同じようにこの環境で学びたい、留学という機会・そのリソースを活かすには 1 年間では短いと思ったのがきっかけでした。

帰国後、海外大進学について調べ、多くの点で米国大学に惹かれました。その中でも大きな決め手になったのはリベラルアーツ教育です。リベラルアーツ教育では、大学 3 年まで専攻を決めず、文理を問わず自由に自分のやりたい科目を履修でき、自分で学びをデザインすることができます。私は将来、平和構築・紛争解決という分野に携わりたいと考えているのですが、戦争や平和を国際政治という視点だけでなく、歴史学や社会学、心理学など様々な視点から見つめたいと考えていたので、リベラルアーツ教育を実施している米国の大学に進学したいと考えました。

出願を終えて今思うことは、海外大進学をして本当に良かったということです。米国大学の入学審査項目は、学力テストだけでなく、学校の成績、課外活動・受賞歴、エッセイなど多岐に渡ります。出願プロセスの中で、特にエッセイを書く際に、自分は何者で、どういうことをしたいのかということについて深く考えたことは、自分自身を理解し、認め、将来の目標を設定して、それに向かって自分らしく歩みを進めることにつながりました。海外大進学が誰しもにとっての正解であるとは思いません。しかし、自分自身を見つめ直し、どの進路選択が自分にとって一番良いのかを考える上で、海外大進学が一つの選択肢としてあれば嬉しい限りです。

海外大進学にはお金がかかることもあり（例：米国大学は学費＋寮費合わせて年間 700 万円ほどかかる）、経済的な理由で海外大進学を諦めてしまう方もいらっしゃるかもしれません。しかし、現在は海外大進学をサポートするための奨学金制度（給付型）が充実しており、私も本当にありがたいことに柳井正財団から年間 7 万ドルの支援をいただく予定です。他にも、グルー・バンクロフト基金や江副記念財団、船井情報科学振興財団、孫正義育英財団や日本学生支援機構（JASSO）などが奨学金を支援しています。そのため、経済的な理由で海外大進学を諦めて欲しくないと思えます。

さて、私が進学する Vassar College はニューヨーク州にある学生数 2400 人ほどのリベラルアーツカレッジ（小規模で大学院がなく学部教育に重点を置く学校のこと+〇総合大学）です。必修がほぼないオープンカリキュラムという制度を採用し、multidisciplinary（学際性）を重視しており、人種・性的マイノリティも多いリベラルな学校でもあります。また、9 割以上の生徒が寮で共同生活を送っており、多様な生徒と密に交流できることも魅力です。幅広い分野や多様な価値観に触れつつ、特に戦争・平和について政治学や歴史学などの視点から多角的に勉強していきたいと考えています。この素晴らしい機会を精一杯活かせるよう全力で頑張りたいと思います。

最後に、この場をお借りして、ここに海外大進学をサポートしてくださった小石川の先生方、応援してくれた友人たちへの感謝の意を表します。ありがとうございました。

最後までお読みいただき、誠にありがとうございます。